

～野菜類及び花き類 シロイチモジヨトウの発生に注意～

発生概況について

- (1) シロイチモジヨトウ雄成虫のフェロモントラップへの誘殺が、7月2半旬から増加し、7月5半旬に誘殺ピークに達しました(図1)。
- (2) 広島气象台発表(7月28日)の1か月予報では、気温は高いとされ、シロイチモジヨトウの活動に好適な気候が続くと考えられます。
- (3) シロイチモジヨトウの幼虫は、野菜類では、ねぎ、キャベツ、レタス、ナス、きゅうり、花き類ではきく、トルコギキョウ、カーネーション等、50種以上の作物を加害します。
- (4) ほ場での幼虫の発生量は、立地条件やこれまでの防除により、大きく異なるため、必ず発生状況を確認しましょう。防除適期は、フェロモントラップの誘殺ピークの約7日後が目安です。

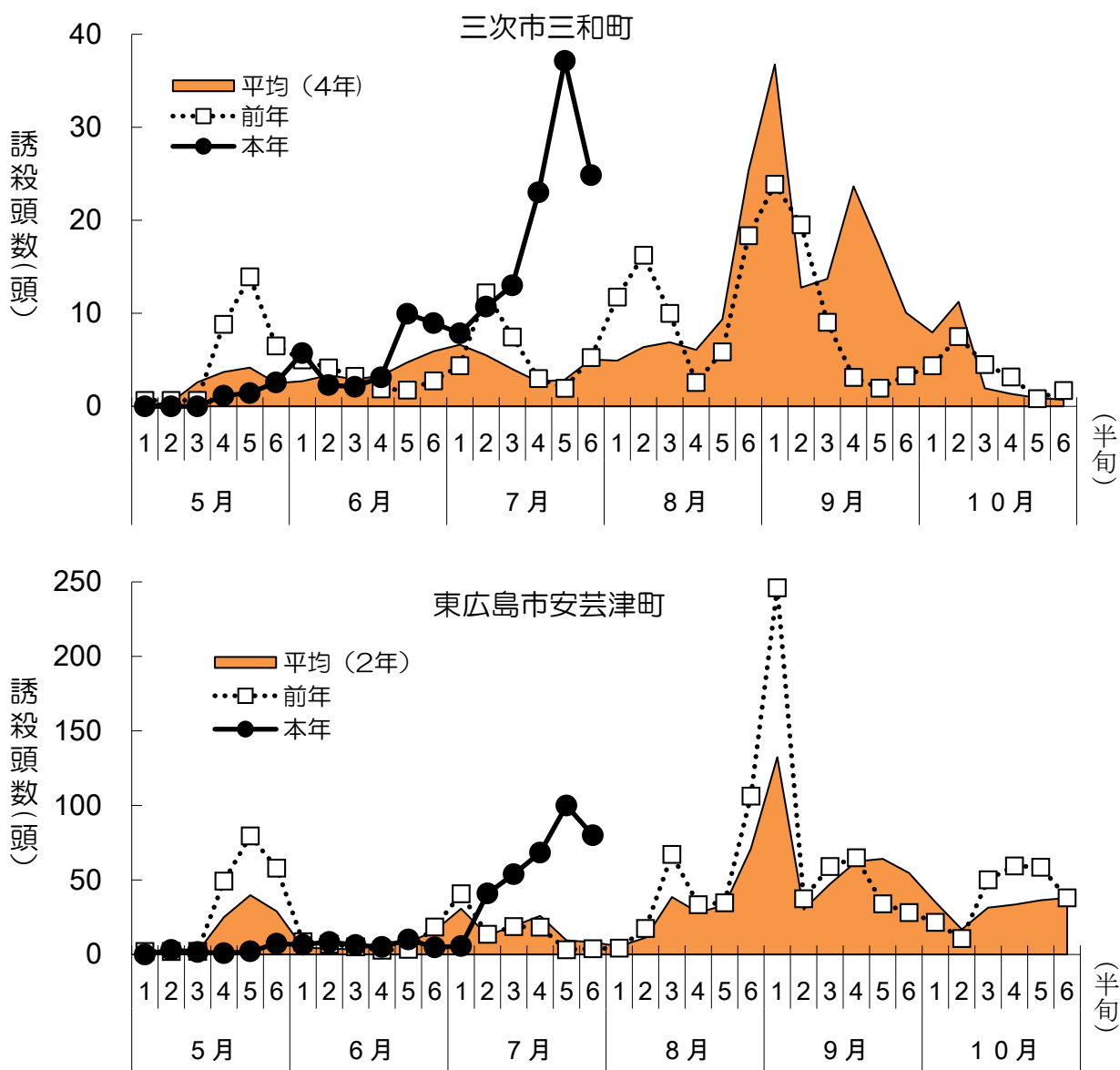


図1 フェロモントラップへのシロイチモジヨトウ雄成虫誘殺数の推移

防除対策について

- (1) シロイチモジヨトウの幼虫は、多くの野菜類、花き類を加害する広食性の害虫です。
- (2) シロイチモジヨトウの雌成虫は、灰白色の毛におおわれた卵塊を葉裏に産みつけます（図2）。ほ場を見回り、卵塊が多くみられる場合は、幼虫の発生に注意しましょう。
- (3) 若齢幼虫（図3）の発生を確認したら、直ちに防除してください。若齢幼虫の発生時期（防除適期）は、フェロモントラップへの雄成虫誘殺ピークの約7日後が目安です。薬剤抵抗性の発達が確認されており、特に老齢幼虫期（図4）になると薬剤が効きにくくなるため、防除は若齢幼虫期に行いましょう。
- (4) 最新のフェロモントラップへの誘殺状況は、「ひろしま農業情報」ホームページでご確認ください。
- (5) 薬剤抵抗性回避のため、異なる作用機構の薬剤をローテーション散布しましょう。
- (6) 薬剤散布については、農薬使用基準を遵守しましょう。周辺作物への飛散防止対策を行い、収穫時期が近い作物がある場合などは、特に注意しましょう。
- (7) ハウス栽培では、開口部を目合い4mm程度の防虫ネットで被覆し、成虫の侵入を防ぐことができます。
- (8) 交信をかく乱して交尾を阻害させる効果がある合成性フェロモン剤を使用することにより、被害を防ぐことができます。



図2 卵塊



図3 若齢幼虫（赤い丸枠）
初期の食害痕（ねぎ）



図4 老齢幼虫（左：緑色型 右：黒色型）

● お問合せ先

広島県西部農業技術指導所 植物防疫チーム
〒739-0151
東広島市八本松町原 6869
TEL：082-420-9662（直通）



ひろしま病害虫情報

(<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/>)

ひろしま病害虫情報

検索

ホームページ
リニューアル!

